第６回　神代川かわまちづくり推進協議会
神代川かわまちづくり八百万神の会

第５回　ワークショップ　資　料

１．これまでの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１
２．ワークショップの進め方について・・・・・・・・・・・・・Ｐ．３
３．ワークショップの結果整理・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．４
４．かわづくり計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．５
５．施工段階における取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．７
６．利用・維持管理段階における取り組み・・・・・・・・・・Ｐ．１２
７．今後の検討課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ．１７

平成２７年２月３日（火）

１．これまでの経緯

○神代川かわまちづくり検討委員会・検討会・推進協議会の経緯

委員会・検討会・推進協議会			検討会名	実施日	概要
委	検	推			
○			第１回神代川河川再生計画検討委員会	平成 23 年 11 月 22 日	・河川再生計画の検討概要 ・これまでの河川再生に向けた行動 ・神代川周辺の歴史・景観資源の確認 ・現地視察
○			第２回神代川河川再生計画検討委員会	平成 24 年 3 月 9 日	・第１回ワークショップ開催報告 ・小学校アンケート実施報告 ・重点課題抽出と再生目標(案)の検討 ・河川再生メニュー(案)の検討
	○		第１回神代川河川再生計画検討会（ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ）	平成 24 年 12 月 13、14 日	・ワークショップ結果の報告 ・高千穂の歴史と神代川のとの関わりについて講話 ・高千穂町のまちづくりの報告
○			第３回神代川河川再生計画検討委員会	平成 25 年 7 月 11 日	・第２回委員会及び計画検討会の課題対応 ・ワークショップ結果の報告
	○		第２回神代川河川再生計画検討会（ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ）	平成 25 年 7 月 12 日	・かわまちづくり計画について
○			第４回神代川河川再生計画検討委員会	平成 25 年 12 月 20 日	・かわまちづくり計画について ・これまでの課題対応状況
		○	第１回神代川かわまちづくり推進協議会	平成 26 年 5 月 8 日	・神代川かわまちづくり推進協議会の立ち上げ ・神代川かわまちづくり計画等の説明 ・他地区での事例紹介（桑子先生）
		○	第２回神代川かわまちづくり推進協議会（第１回ワークショップ）	平成 26 年 7 月 24 日	・神代川かわまちづくり計画全体イメージの理解 ・ワークショップ名称の決定「神代川かわまちづくり八百万の会」
		○	第３回神代川かわまちづくり推進協議会（第２回ワークショップ）	平成 26 年 9 月 26 日	・大まかな河川形状や遊歩道等の整備方針を考える ・島谷先生による模型作成の指導 *※地元住民も参加して実施*
		○	第４回神代川かわまちづくり推進協議会（第３回ワークショップ）	平成 26 年 10 月 9 日	・班別協議結果のすり合わせ ・細部のデザインについて考える ・ワークショップにおける班別の中間取りまとめ *※地元住民も参加して実施*
○			第５回神代川河川再生計画検討委員会	平成 26 年 11 月 4 日	・ワークショップにおける検討結果（中間）の確認 ・ワークショップにおける今後の検討内容について ・地質調査結果・水源の確保について ・今後に向けた方向性の確認
		○	第５回神代川かわまちづくり推進協議会（第４回ワークショップ）	平成 27 年 1 月 19 日	・ワークショップの結果整理 ・委員会における指摘事項 ・かわまちづくりメニューの再確認
		○	第６回神代川かわまちづくり推進協議会（第５回ワークショップ）	平成 27 年 2 月 3 日（今回）	・整備イメージの最終確認 ・維持管理体制の確認

○その他

■神代川に関する講演・パネルディスカッション ： 平成 26 年 11 月 4 日実施

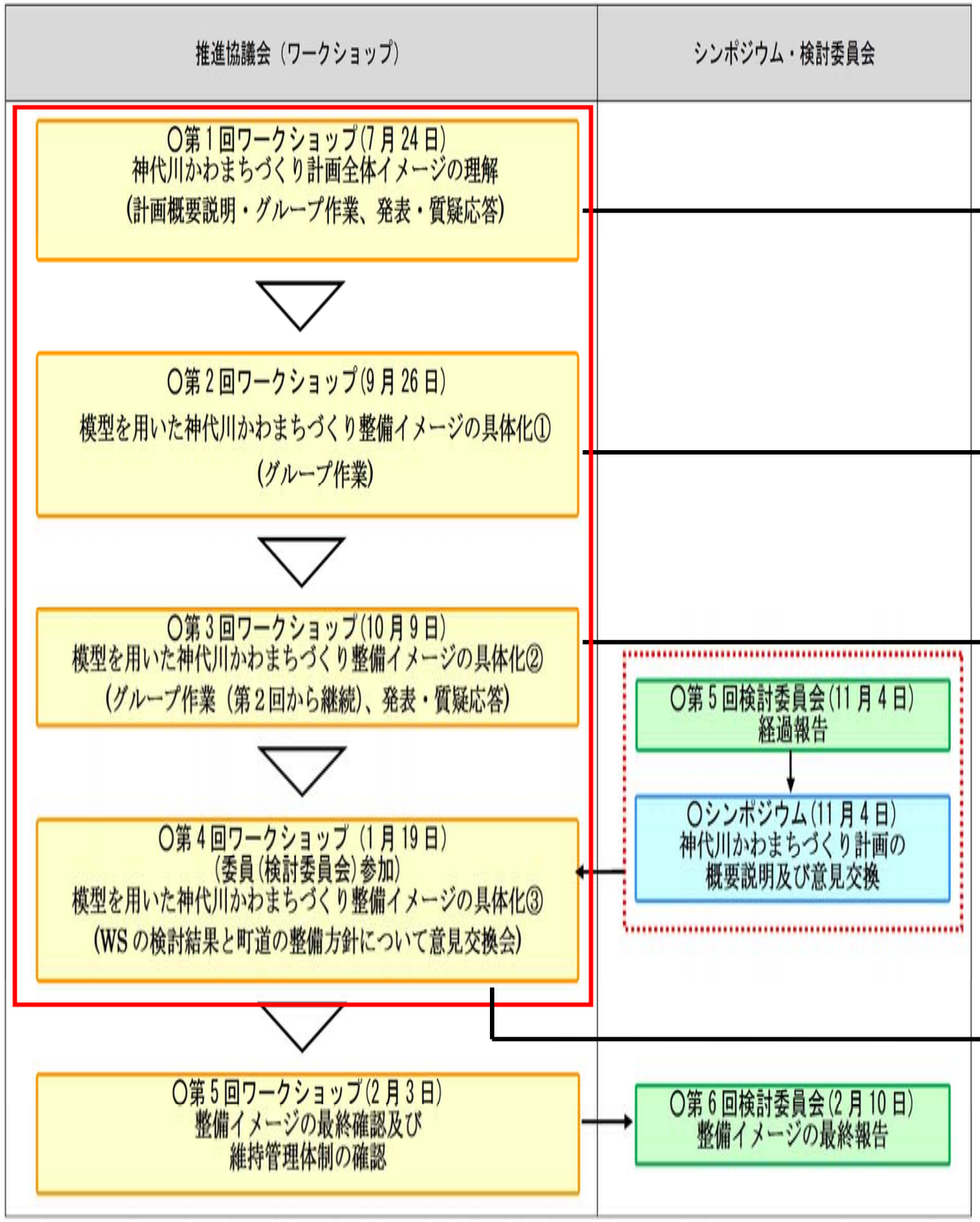
・神戸女子大学 非常勤講師 李 春子先生

仮題:「東アジアの「水」を巡る「伝統の森」の文化の資料化」

・パネルディスカッション

（杉尾先生、桑子先生、土井先生、山口課長、後藤宮司）

○本推進協議会（ワークショップ）における検討状況



第１回ワークショップの流れ

次第	内容	所要時間
1．ワークショップの進め方	①ワークショップ全体の流れについて ②第１回ワークショップの内容について	19:00～19:10 (10 分)
2．神代川かわまちづくり計画について	①神代川かわまちづくり計画の目的 ②神代川かわまちづくり計画 （対象区域、整備方針等） ③グループ作業内容の説明 ⇒グループ作業の着眼点等を説明する。	19:10～19:20 (10 分)
3．グループ作業	**【グループ作業】** ⇒４班程度に分かれて、各班毎に議論 ２班：共通「神代川かわまちづくり計画」 各班「天真名井周辺・神々のゾーン」or 「皇子橋周辺・水辺いこいのゾーン」 ２班：共通「神代川かわまちづくり計画」 各班「天真名井周辺整備」or「皇子橋周辺整備」	19:20～20:10 (50 分) ①メンバー確認：5 分 ②代表者決定：5 分 ③グループ作業：30 分 ④とりまとめ：10 分
4．発表・質疑応答	**【グループ発表】** ⇒各班の代表者が発表し、それに対して質疑応答を行う。	20:10～20:50 (40 分) １班あたり 発表　5 分 質疑応答 5 分
5．まとめ・次回ワークショップについて	①全体整備イメージについて。 ②協議会の名称について ③第２回ワークショップについて	20:50～21:00 (10 分)

第２回ワークショップの流れ

次第	内容		所要時間
1．ワークショップの進め方	①ワークショップ全体の流れについて ②第１回ワークショップの結果について ③第２回ワークショップの内容について		19:00～19:20 (20 分)
2．グループ作業内容について	①島谷先生からのアドバイス		19:20～19:35 (15 分)
3．グループ作業	天真名井・皇子橋周辺	くしふる周辺・バスセンター周辺	19:35～20:45 (70 分) 1.メンバー確認：5 分 2.代表者決定：5 分 3.グループ作業：60 分
	①他のゾーンとの連続性 ②川の流れ ③川幅 ④管理用通路	①他のゾーンとの連続性 ②ルート上に他の拠点施設 ③ルート設定 ④ルート整備	
4．まとめ・次回ワークショップについて	①第３回ワークショップについて		20:45～21:00 (15 分)

第３回ワークショップの流れ

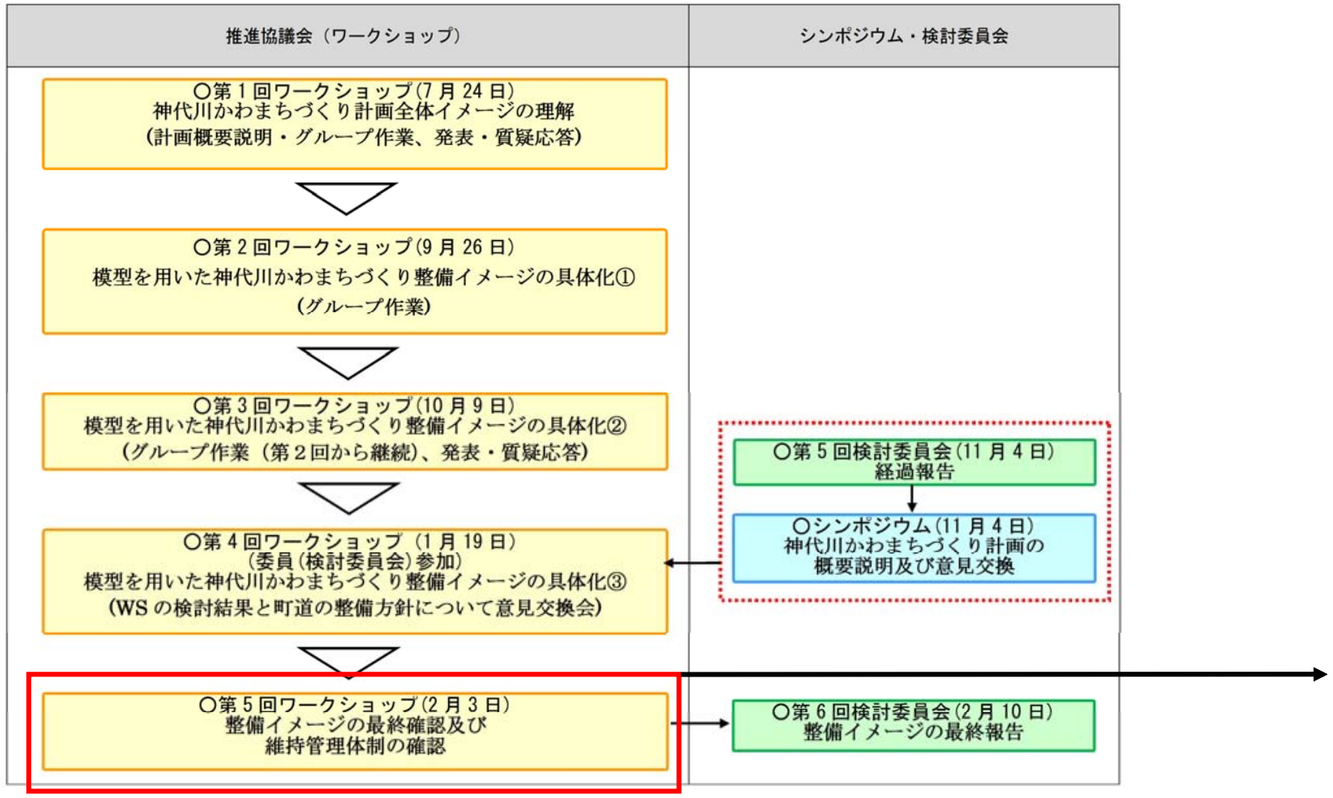
次第	内容			所要時間
1．挨拶・はじめに	・挨拶 ・ワークショップ全体の流れについて			19:00～19:10 (10 分)
2．グループ作業内容について	・第２回ワークショップの結果について ・第３回ワークショップの内容について ・班分け変更説明（3・4 班は合同） ・第２・３回ワークショップの結果とりまとめについて			19:10～19:30 (20 分)
3．グループ作業	天真名井	皇子橋周辺	くしふる周辺 バスセンター周辺	19:30～20:30 (60 分)
	①ルート設定 ・河川形状、川幅 **②施設配置** ・管理用通路、川に降りる場所、広場、休憩施設 **③施設デザイン、規模等** ・護岸形状、管理用通路の幅員、広場の規模、休憩施設のデザイン **④その他** ・		**①ルート設定** ・観光施設周遊ルート、観光客の導線 **②施設配置** ・駐車場、行先案内板、施設説明板、休憩施設 **③施設デザイン、規模等** ・駐車場の規模、周遊ルートの舗装・手すり等、町道の車道・歩道等、案内板 **④その他** ・	
	・検討結果とりまとめ			20:30～20:40 (10 分)
4．班別発表	・各班から取りまとめ結果を報告			20:40～20:55 (15 分)
5．次回以降の予定について	・シンポジウム・委員会→次回 WS の開催連絡			20:55～21:00 (5 分)

第４回ワークショップの流れ

次　第	内　容	所要時間	備　考
1．挨拶・はじめに	・挨拶 ・ワークショップ全体の流れについて	19:00～19:10 (10 分)	
2．ワークショップ結果整理	・これまでのワークショップの結果を整理・報告 →委員会提出資料の再整理	19:10～19:20 (10 分)	
3．委員会での指摘事項について【報告・確認】	委員会からの指摘事項の報告 →意見整理シートの説明	19:20～19:40 (20 分)	
4．意見交換会	かわづくり関連 ①石積み護岸への変更による河川幅への影響について →粗度係数の変化に伴う河川の必要幅を説明 ②天真名井の水量確保について →委員会から得られた天真名井の水量確保の方針について、概略図等で説明 ③神部の条件確認 →模型での計画反映事項とその他練部事項の確認	19:40～20:10 (30 分)	
	まちづくり関連 ①散策路及び町道の整備方針について →今後の進め方について、スケジュール等を高千穂町より説明 ②散策路整備イメージについて →観光マスタープラン等の資料や他地区の事例等をもとに整備イメージを提示し、意見交換を行う ③町道整備イメージについて →他地区の事例や高千穂町の道路整備イメージを提示し、意見交換を行う	20:10～20:50 (40 分)	
5．次回以降の予定について	・次回以降の WS、委員会開催予定について説明を行う	20:50～21:00 (10 分)	

２．ワークショップの進め方について

ワークショップ全体の流れ

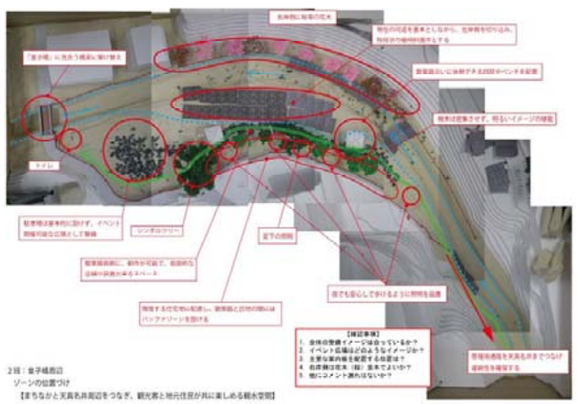


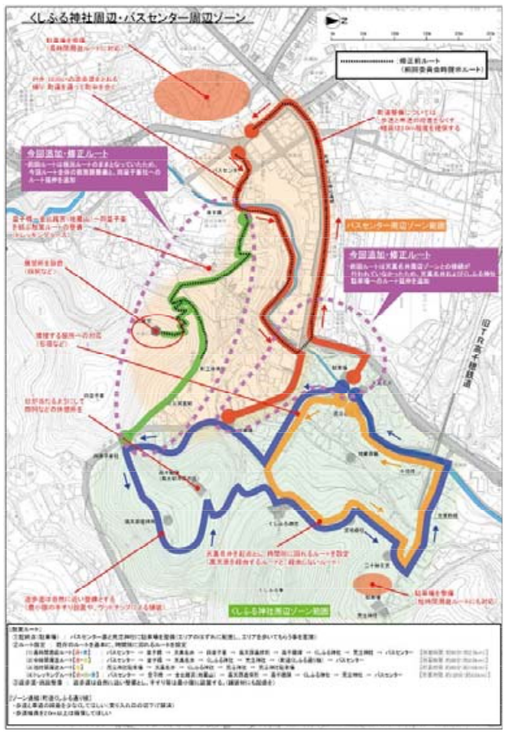
第５回ワークショップの流れ

次　第	内　容	所要時間	備　考
1．挨拶・はじめに	・挨拶 ・ワークショップ全体の流れについて	19:00～19:05 (5 分)	
2．WS結果整理	・これまでのＷＳの結果を整理・報告 →計画内容に関する事項（第１回～第４回）	19:05～19:15 (10 分)	
4．意見交換会	かわづくり計画について →整備イメージ模型について ・整備イメージ模型について、整備に関する食い違いや、追加要望等を確認。	19:15～19:35 (20 分)	
	各班発表・まとめ	19:35～19:50 (15 分)	
	施工段階における取り組み →地域住民の関わり（記念植樹、石並べ、観光客への対応　等） ・地域住民として、施工段階でどのような関わり方が考えられるか、また、どのような関わり方を望むか。 →子供たちの関わり（記念植樹、石並べ、工事見学会　等） ・地域の子供たちの施工段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。 →観光客の関わり（工事の観光資源化　等） ・観光客の施工段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。	19:50～20:10 (20 分)	
	利用・維持管理段階における取り組み →地域住民の関わり（定期清掃、日常利用　等） ・地域住民として、利用・維持管理段階でどのような関わり方が考えられるか、また、どのような関わり方を望むか。 →子供たちの関わり（歴史学習、ゴミ拾い　等） ・地域の子供たちの利用・維持管理段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。 →観光客の関わり（観光拠点、イベント　等） ・観光客の利用・維持管理段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。	20:10～20:30 (20 分)	
	各班発表・まとめ	20:30～20:45 (15 分)	
5．今後の検討課題	かわづくり関連 ①護岸や川底のデザインについて →空石、練石、割石、化粧パネル、擬石　等 ②平地部分の整備デザインについて →芝生、土、石、ブロック、コンクリート　等 ③施設整備デザインについて →橋梁、トイレ、四阿、ベンチ、案内版、　等	20:45～20:50 (5 分)	
	まちづくり関連 ①散策路整備の方向性 →散策路整備について、具体的な整備の進め方、今後の課題等を説明。 ②道路整備の方向性 →道路整備について、具体的な検討の進め方、今後の課題等を説明。	20:50～20:55 (5 分)	
6．次年度以降の予定について		20:55～21:00 (5 分)	

３．ワークショップの結果整理（第１～４回までの総まとめ）

	ゾーンの位置づけ	天真名井周辺	皇子橋周辺	くしふる周辺	バスセンター周辺	その他
1班 天真名井周辺	かわまちづくり計画の中心として、水と歴史にふれられる空間	○天真名井前 ・パラペットの撤去（神興台と神事スペースは残す（宮司さんにも確認）） ・河床を少し上げ（清銘） ○上流側 ・川幅を広げて河床で遊べる空間の確保 ・河床にアプローチしやすい階段、飛び石の設置 ・左岸と右岸を結ぶ橋の整備（太鼓橋をイメージ） ・休憩所・広場の確保 ○管理用通路 ・両岸に配置（左岸は軽トラ程度への対応） ○植樹 ・四季を感じられる花木の植樹	○天真名井を中心して多方面からアクセスできるように誘導（案内板の整備等）	○アマテラス鉄道とくしふる神社周辺を周遊するような関連付け ○天真名井を中心して多方面からアクセスできるように誘導（案内板の整備等）	○天真名井を中心して多方面からアクセスできるように誘導（案内板の整備等）	○観光客が興味深きを知って天真名井を訪れてくる ○神聖な水で、神聖な場所としての位置づけが重要 ○天真名井が成り立ちを知りたくなるような雰囲気、神秘的な場所としての演出 ○観光客だけでなく住民を含めた憩の場の整備 ・ゆっくり休憩しながら歩ける空間 ・地元も利用しやすい空間（維持管理もしやすい） ○天真名井と高千穂峡つながりは重要（天真名井の水は高千穂峡にな流れている）
2班 皇子橋周辺	まちなかと天真名井周辺をつなぎ、観光客と地元住民が共に楽しめる観水空間	○天真名井との連携軸を整備 （川沿いを中心とした導線）	○左岸側を中心に護岸を緩傾斜化 ○皇子橋左岸付近に駐市ができる空間（広場整備）とトイレの整備 ○観光客が立ち寄れる空間 ○夜でも安全に利用できる空間 ○近傍に不足している公園としての機能を確保 ○駐車場は設置しない（まちなか利用） ○遊歩道沿いにベンチを配置 ○右岸側への桜などの植樹	○生活利用も可能な連携軸として整備 （地域住民も利用しやすい導線）	○まちなかとの連携軸として整備 （観光客が入りやすい導線）	○皇子橋付近だけではなく天真名井との連携が必要不可欠 ○昔の賑わいを再生したい ○中心市街地では公園機能が不足
3班 くしふる周辺	天真名井を起源とした神々の歴史と自然を感じられる空間	○利用者の利便性に配慮した周遊ルートの整備 ・神代川右岸側遊歩道整備 ・左岸・右岸をつなぐ橋の整備 ・荒立神社参道から市道を迂回しないルートの確保	○主要ポイントにおける誘導施設の設置 ・くしふる神社 ・荒立神社 ・天真名井 ・国道 220 号一本木交差点 ○神々を巡るルートの特徴づけ（記紀に基づくルート設定等）	○主要施設を回るのみの短時間コース設定 ・高千穂峡や四皇子峰を通らないコース ・上記に伴う駐車場整備（荒立神社） ○天真名井からくしふる神社に至る遊歩道周辺の景観整備（雑草の修景等）→石垣 ○神々を巡るコースの特徴づけ（記紀に基づくコース設定等） ○コース別に応じた案内板の設置 ○遊歩道整備は最小限とし、自然に近い形を残す（危険な箇所や歩きにくい箇所のみを整備）	○バスセンターエリアとの連携軸整備（金比羅宮へのアクセス道路）	○荒立神社の裏山整備（個人主導）との連携 ○駐車場はまちなかを歩いてもらえるように配置（距離の長い遊歩道等については高齢者に配慮して最小限の整備）
4班 バスセンター周辺	観光客の移動拠点として、歴史施設などの情報を発信する空間	○天真名井・くしふる周辺への遊歩道整備 ・天真名井やくしふる周辺との連携は、神代川の遊歩道でつなぐ動線がよい（金比羅側のルートは傾斜が急なため） ・川沿いを歩いて、後藤商店へ出るルートがよい ○自然の形を生かした遊歩道整備 ・舗装等、大規模な遊歩道整備は行なわず、安全面に配慮した最小限の整備	○皇子橋周辺の管理用通路と一体化した遊歩道整備	○天真名井・くしふる周辺への遊歩道整備 ・天真名井やくしふる周辺との連携は、神代川の遊歩道でつなぐ動線がよい（金比羅側のルートは傾斜が急なため） ・川沿いを歩いて、後藤商店へ出るルートがよい ○自然の形を生かした遊歩道整備 ・舗装等、大規模な遊歩道整備は行なわず、安全面に配慮した最小限の整備	○高千穂町内観光の移動拠点整備 ・町立病院跡地を駐車場として、観光客の移動拠点としての整備 ○天真名井・くしふるエリアとの接続 ・神代川沿いの遊歩道でつなぐ動線がよい（金比羅側のルートは傾斜が急なため） ・川沿いを歩いて、後藤商店へ出るルートがよい ○金比羅宮（地蔵山）への展望所設置 ○遊歩道整備は最小限とし、自然に近い形を残す（危険な箇所や歩きにくい箇所のみを整備）	○マップの作成 ・外国語に対応した、コースがわかりやすいマップの作成（天孫降臨をイメージできるマップ） ○町道整備について ・歩道と車道の段差をなくし、幅員を 2.0 m程度確保する ○駐車場はまちなかを歩いてもらえるように配置（距離の長い遊歩道等については高齢者に配慮して最小限の整備）





１．かわまちづくり整備イメージの具体化

→具体化の考え方（マトリクス表）や計画イメージについて確認。第５回ワークショップにおいて、整備イメージ模型をもとに改めて確認を行う。

２．石積み護岸への変更による河川幅への影響について

→流量計算により実際の河道幅を決定する。

→河道幅の決定に際しては、利用面や景観面よりも、流下能力を満足するものでなくてはいけない。

→流量計算では、前後の断面変化により流れ方が変わる。（川幅を広げれば水がたくさん流れるというわけではない）

→このため、これまで検討してきた粘土模型での形状をもとに、流下能力を満足させるよう断面を一部変化させている。

３．真名井の水量確保について

→ボーリング調査、電気探査等の調査結果から、雨水浸透枡を用いて天真名井に湧水を復活させることは難しいとの結果。

→委員会では近傍の井戸からポンプアップにより水量を確保し、天真名井に導水する方法が最も妥当ではないかという考えである。

→水量確保については、天真名井だけではなく河道内も含め、委員会においても引き続き検討を行うこととしている。

４．細部の条件確認について

→地元での清掃活動においてゴミ等の集積に苦慮するため、上り下りの箇所を確保してほしい。

→これまでの計画でも天真名井周辺では大階段を含め３箇所、皇子橋周辺では１箇所の階段施設が設けられている。

→天真名井周辺でどこかにスロープ状の箇所を設けられないか検討してほしい。

５．町道の整備方針について

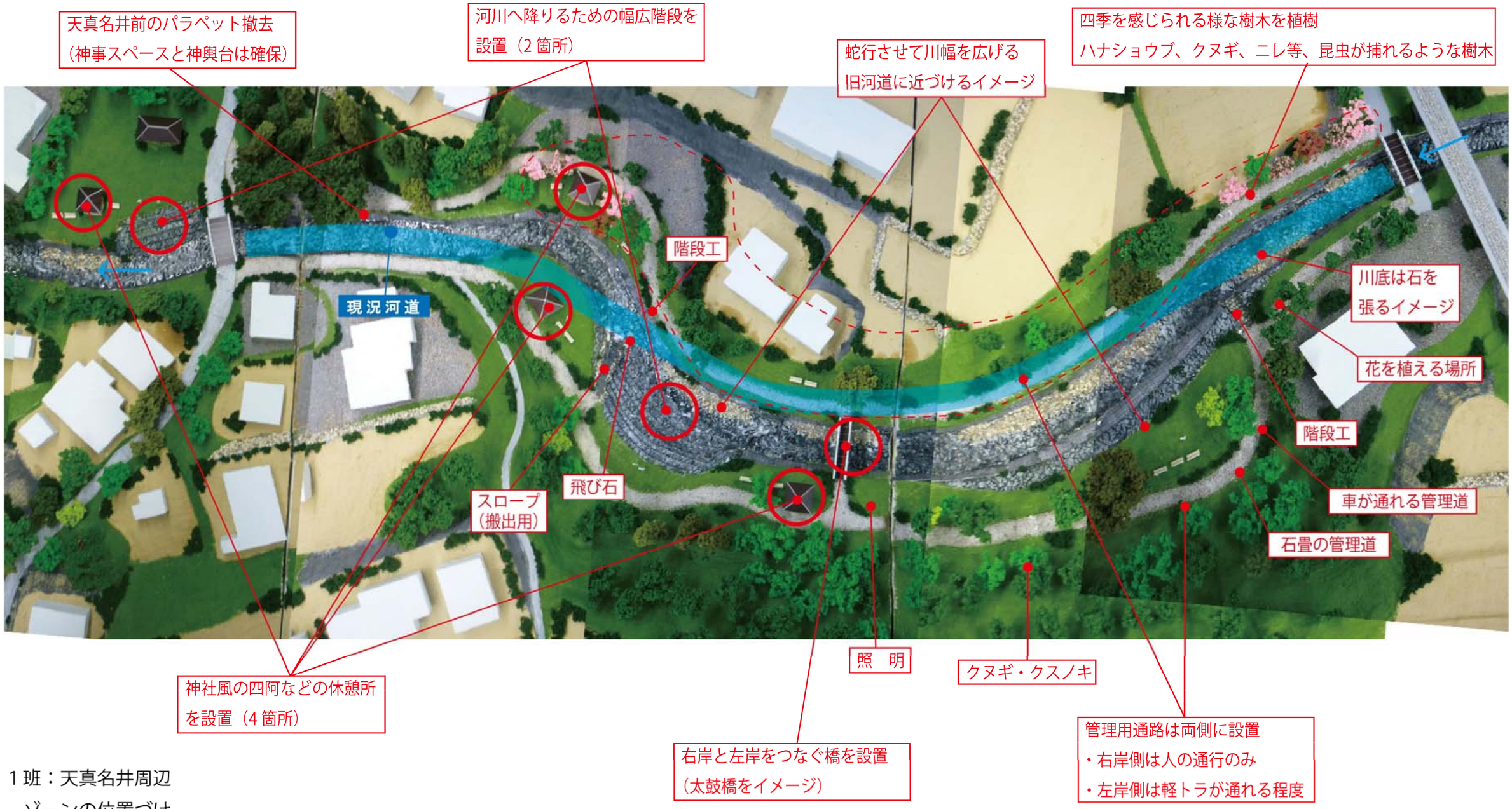
→くしふる周辺の散策路については、来年度から具体化に向けた取り組みを行いたいと考えている。（計画書におけるスケジュールより１年前倒し）

→道路整備等に関しては、町全体としてのまちづくり考え方との整合を図る必要があるため、全体計画→個別計画の順となるが、本年度末からの着手を予定としている。（1～2年前倒し）

→まちづくり計画については高千穂町が主体となって、別途まちづくりを考える場（協議会等）を設けたいと考えている。

４．かわづくり計画について
【模型による確認】

○天真名井周辺

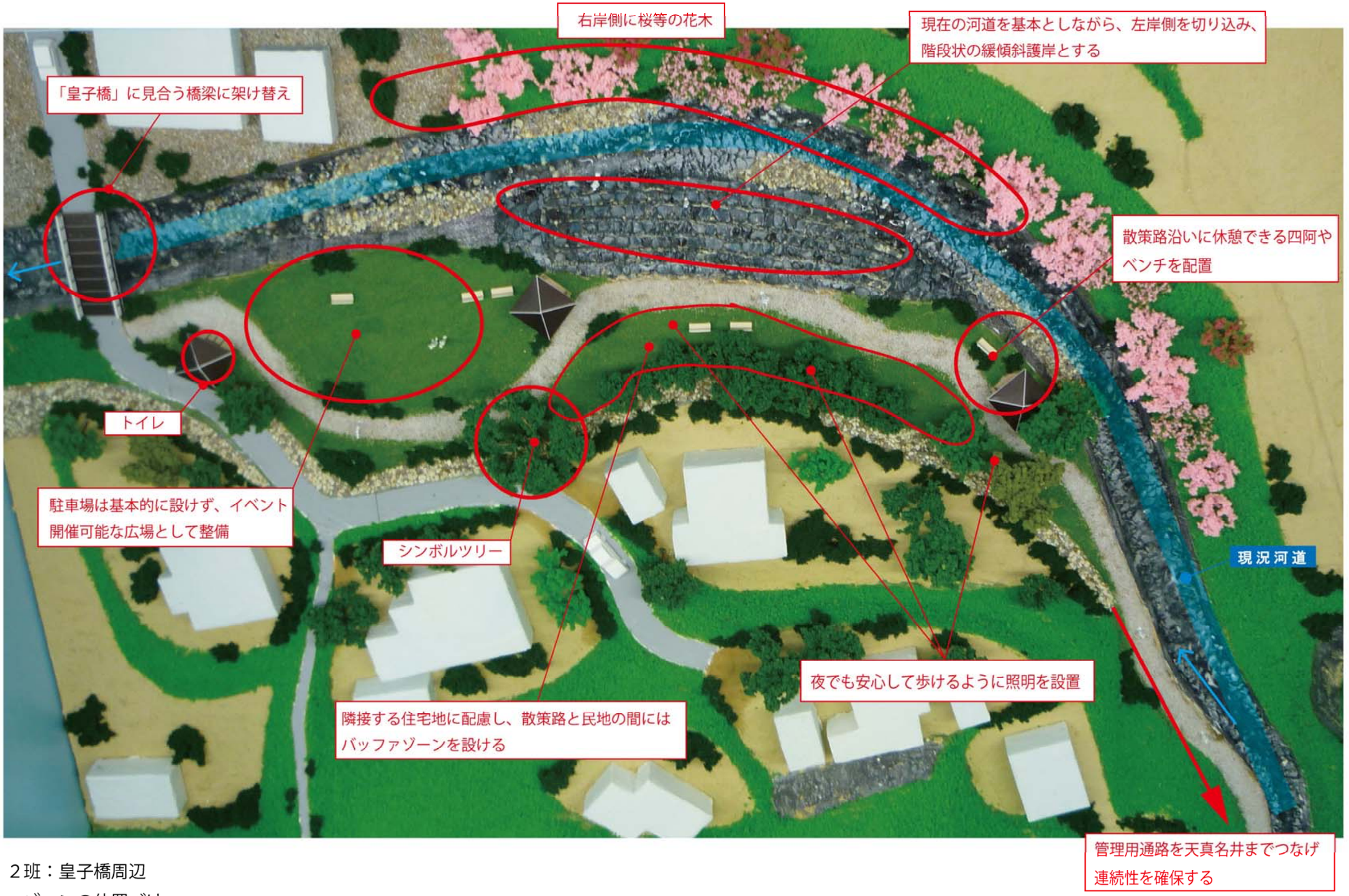


１班：天真名井周辺

ゾーンの位置づけ

【かわまちづくり計画の中心として、水と歴史にふれられる空間】

〇皇子橋周辺



２班：皇子橋周辺

ゾーンの位置づけ

【まちなかと天真名井周辺をつなぎ、観光客と地元住民が共に楽しめる親水空間】

５．施工段階における取り組み

取り組みの対象		WS における意見	備　考
地域住民の関わり （記念植樹、石並べ、観光客への対応　等）	地域住民として、施工段階でどのような関わり方が考えられるか、また、どのような関わり方を望むか。（起工式のあり方・・・等）		
子供たちの関わり （記念植樹、石並べ、工事見学会　等）	地域の子供たちの施工段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。		
観光客の関わり （工事の観光資源化　等）	観光客の施工段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。		

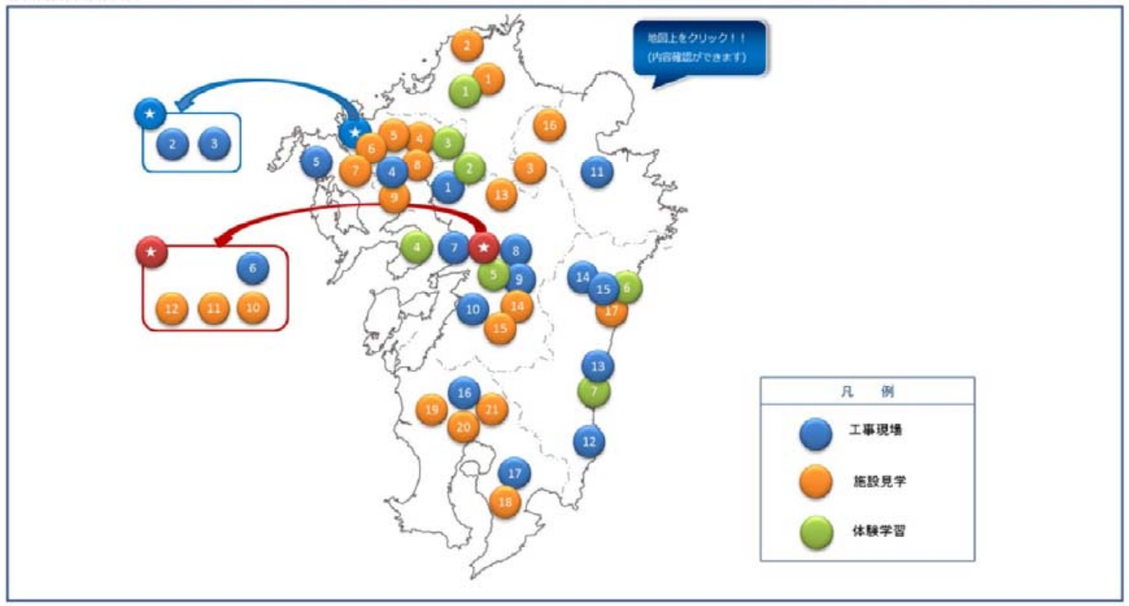
国土交通省　九州地方整備局の現場見学案内

『今見てほしい　九州の土木』

現場の「今」をご案内します。見学は無料。
レアな現場も数多く掲載。
最新情報も随時更新。
この機会に家族や団体で見学に出かけませんか。

【平成２６年10月１日現在の情報】

位置図



河川の工事現場が見られます
（緑川水系御船川　御船地区環境整備工事）

御船地区では環境整備事業（かわまちづくり）として、御船町や地元住民等と連携のもとで、河川利用者の安全性の向上、良好な河川空間の形成を図るために水辺整備を進めています。

・見学日　：　平成27年3月末まで　平日　10:00～16:00（土日、祝日、年末・年始除く）　※雨天中止
・見学場所：　熊本県上益城郡御船町地先

申し込み方法

1）問い合わせ先　：
　住所　：　熊本県熊本市東区西原1丁目12番1号　　熊本河川国道事務所　地域連携課
　電話　：　096－382－1198（地域連携課直通）　　FAX　：　096－382－4253
　E-mail　：　kumamoto-tiren01@qsr.mlit.go.jp
2）申し込み方法　：
　①住所、②氏名、③連絡先電話番号、④希望見学日、⑤見学者人数（大人、子供）を記入の上、FAX、Eメールのいずれかにより、2週間前までにお申し込みください。

3）その他
　お申し込みに当たりましては、いくつか留意点がございますので、まずはお電話でお問い合わせ下さい。

●出雲大社『神門通り』整備計画（島根県 HP より）

神門通りは、出雲大社への参詣道として約 100 年前（1913 年）に開設され、沿道は門前町として栄えてきましたが、モータリゼーションの進展に伴う通過型観光（出雲大社直近の駐車場に駐車し、参拝だけして帰る。神門通りは車で素通りしてしまう。）への転換などにより、かつてのにぎわいが失われました。

このため、県、出雲市、関係団体および地元住民が一体となって、出雲大社の門前にふさわしい風格とにぎわいのある通りへの再生に取り組んでいます。

整備前（平成 22 年 4 月）

整備後（平成 24 年 8 月）

工事中の関わり：デザインワークショップ　原寸サンプルによる現地見試し

神門通りの最終的な道路の形（デザイン）について検討するため、平成 23 年 6 月 24 日から平成 23 年 12 月 10 日まで、合計 3 回開催しました。石畳と照明は現地見試し（原寸模型の確認）も行いました。

石畳　現地見試し状況（原寸サンプルの確認）

照明　現地見試し状況（原寸模型と光の確認）

工事中の関わり：メモリアル企画「石畳に残そう 100 年のメッセージ」

石畳工事にあわせ、地元住民や観光客に、石材（裏面）へ自由にメッセージを記入してもらう取り組みを行いました(平成 24 年 5 月 10 日(木)から平成 24 年 6 月 17 日(日)、平成 24 年 12 月 7 日（金）から平成 24 年 12 月 24 日（月))。メッセージが記入された石材は実際に神門通りに敷かれ、参加者が神門通りや大社地域への愛着を深め、リピーターが増えるよう期待しています。5 月 27 日に開催された「えびすだいこく 100km マラソン」でも実施し、ゴールしたランナー達が石畳に思い出を刻みました。

・対象：地元住民、観光客など誰でも参加可能（参加費無料）
・参加人数約 3,000 人石の枚数約 1,000 枚

TOPICS ▶ インフラツーリズム

ひと皮むけた企画のカギは?

「どう見せるか」という工夫がより幅広い層を引きつける

ダムや橋、トンネルなど、インフラ施設や工事中の現場を観光資源化する取り組みが広がりを見せている。いわゆるマニア層にとどまらず、より幅広い層を集客するための工夫例も散見できる。ツアーの主催者や旅行会社などの声を集めて、「ひと皮むけたインフラツーリズム」を成功に導くカギを探る。　(三上 美絵=フリーライター)

(写真:琉)

下に挙げたのは、国土交通省が2013年6月からほぼ四半期ごとに発行しているパンフレット。各地方整備局が民間旅行会社と連携して展開している「ダムツアー」の情報をまとめたものだ。インフラ施設を観光資源化するこうした取り組みは、全国に広がっている。従来は"マニア層向け"になりがちだったが、その点にも少し変化が現れてきた。

このパンフレットの作成に関わる同省水管理・国土保全局河川環境課の三橋さゆり河川環境評価分析官は、「観光客を呼び込むことは、水源地の地域活性化にも一役買うはず」と話す。三橋分析官は、同省が07年から作成している「ダムカード」の仕掛け人でもある。マニア層だけでなくより幅広い層を呼び込むことが、地域活性化などプラスアルファの効果につながるという考え方だ。いわば「ひと皮むけたインフラツーリズム」と言えるだろう。

国土交通省のパンフレット。「夏はダムへ涼みに」、「ダムと紅葉の鮮やかなコントラスト」などキャッチコピーも工夫している(資料:次ページも国土交通省)

集客対象をより幅広い層へ

より幅広い層向けに観光資源として磨きを掛けるうえでは、「どう見せるか」という工夫が欠かせない。インフラツーリズムを手掛ける旅行会社の担当者に聞くと、"ウリ"になるポイントがいくつかある。

まずは、何と言っても「スケール感」。満々たる水をたたえたダムや、紅葉が映える渓谷に架かった橋梁など、構造物の巨大さや周囲の自然と一体化した景観の迫力は、誰にとってもインパクトがある。

通常は目にできない光景、近づけない場所、なかなか聞けない話といった「希少価値」も人の心を引きつける。ダムの監査廊や供用前の高速道路などに足を踏み入れる体験、技術に関するうんちくや建設時の知られざる逸話などは、旅行商品としての魅力に花を添える。

2点とも、JTBが茨城県の委託業務で実施したダムツアー。左は水沼ダム、右は十王ダム。放水や夜間照明に映えるダム湖の噴水など見せ場を計算して企画化(写真:琉)

幅広い層を対象にするうえでは、逆説的だが、マニア層の視点も欠かせない。ポピュラーな観光名所のように万人が足を向ける場所ではないので、「何が魅力か」を示すガイド役の存在が集客効果につながりやすい。カリスマ的マニアや「○○好き」を公言する有名人などが最たる例で、メディアやネットなどを介した情報の拡散も見込める。

さらにツアー参加者にとっては、「手軽さ」も大切だ。ダムや橋梁など、目玉となり得るインフラ施設の多くは総じてアクセスが不便。貸し切りバスで複数の施設を巡ったり、近隣の観光名所も併せて訪ねたりといった工夫も、旅行商品として有効なセールスポイントになる。

左は国土交通省が111カ所のダムで見学者向けに発行している「ダムカード」。上は、青森県で建設中の津軽ダムをイメージして地元の公社がこの夏、物産センターで期間限定販売した「ダムカレー」。こうした派生グッズなども集客ツールとして有効(写真:琉)

■ ツアー企画の"ウリ"になる四つのポイント

一、スケール感	巨大構造物自体の迫力や、周囲の自然との対比、さらに「それらが人の手でつくられた」という事実などが見る人に感動を与える
一、希少価値	普段は入れない場所、見たことのないもの、ほかでは聞けない話、工事中で今のタイミングでしか見れないものなどは、一般の人にとって魅力
一、マニア市場	ダムや橋など既に一定のマニア層がいる分野では、マニア間のネットなどを通じた口コミ効果が、集客でも期待できる
一、手軽さ	アクセスしにくい場所にある施設も多いので、公共交通機関での移動を前提とした顧客層(特に高齢者や女性)が手軽に効率よく回れる企画が人気

商品化のプロにとってのハードル

旅行会社にとってもインフラツーリズムは、いまや商品企画のうえで魅力あるテーマ。だがハードルもある。例えば、企画を具体化するためにどこに相談すれば良いのか、分かりにくいという点だ。

インフラツーリズムへの取り組み姿勢は現状で、国や自治体といった施設管理者によって温度差があり、担当者レベルでもまちまち。「民間の営利事業にどこまで協力していいか、とまどう担当者もいるようだ」。国交省の三橋分析官は、受け入れ側の心理面をこう打ち明ける。

他方、JTB国内旅行企画東日本事業部の深沢令子地域コンテンツ開発担当課長は、「工事の情報をきめ細かく発信してくれたり、施設側にツアーの受け入れを仲介してくれたりする一元的な窓口があると、こちらとしては助かる」と話す。

旅行会社側も、現状ではインフラツーリズムの運営ノウハウが十分ではない。「トイレはどうする？」、「休息や昼食はどこで？」といった細々した段取りも観光名所とは勝手が違い、ひと手間かかる。また、同一メニューで年間に何本ものツアーを実施できるほど、常に安定したニーズを見込めるわけではないので、採算性は必ずしも高くない。

さらなる広がりを求めるなら、こうした旅行会社の負担への配慮や、参入しやすい環境の整備が不可欠だ。「施設側から手を挙げてもらえれば、旅行会社にとっては商品化しやすくなるだろう」(JTB関東法人営業水戸支店水戸市誘客促進・活性化事業担当の西島佳子氏)。

管理者側が「魅力」に気付けるか

インフラツーリズムを成功に導く秘訣とは？——。主催者や旅行会社に聞いた話からまとめたのが、次ページ右端に挙げた八つのカギだ。例えば冒頭の「テーマを設定せよ」について、具体例を挙げてみよう。

「夏休み！　親子で学べる道づくり」、「東京港トンネルウォーキングツアー　～大井からお台場まで歩く大人の探検～」。これらは土木学会とJTBが2013年夏から実施してきたツアーのタイトル例。ツアーの切り口や内容、集客対象といった企画テーマが明確に絞り込まれていることが分かるタイトルだ。

土木学会でこれらを担当した社会コミュニケーション委員会の佐々木正委員は次のように話す。「専門メディアだけでは業界関係者の目にしか触れない。一般メディアに積極的に情報発信することが大切」。テーマの明確さは、メディアも取り上げる切り口を見い出しやすいというメリットがある。

二番目の「マニアを巻き込め」では、JTB関東の西島氏に次のような経験がある。自治体の委託事業でダムツアーを企画した際、マニアの間で「ダム王子」と呼ばれるカリスマ的存在の琉氏(左ページの囲み)らに相談した。参加者が喜びそうな見どころを助言してもらい、ガイドとしてツアーの同行も依頼。ネットなどを介した口コミ効果もあり、宣伝費はほぼゼロで、20人の定員は告知から2週間で埋まったという。

八つのカギで最も大切なのは、最後に挙げた「自ら魅力に気付く」。琉氏は「『見たがる感覚を理解できない』という人が施設管理者側に少なくない」と指摘する。実際にツアーを実施すると、参加者が現地で喜ぶ様子に、改めて感動する管理者側担当者も多いという。施設を最も知る管理者側がまずは「見てほしい」と感じることこそ、ひと皮むけたインフラツーリズムの第一歩だ。

■ 商品化を阻む五つのハードル

窓口が不明	旅行会社などの企画提案に対して、インフラ施設の管理者・発注者側に決まった窓口がない。どこにどんな施設があり、どうすれば見学できるのかが分かりにくい
担当者側にとまどい	外部の企画を受け入れる施設管理者・発注者などの担当者レベルで、「営利目的の企画にどこまで協力していいのか」といったとまどいがある。組織を挙げた"お墨付き"が必要
ノウハウが未確立	インフラ施設をウリにしたツアー商品は企画開発のノウハウが確立していないので、旅行会社などの外部企画者には"手づくり"の面が多く、手間がかかる
採算性が低い	同じ企画内容のツアー商品を繰り返して実施するほど多くのニーズはなく、それだけでは旅行会社などの外部企画者にとって採算性が低い
休息場所が不十分	本来は観光用施設ではないので、ツアー参加者が休憩したり、食事したりするスペースがなく、トイレなどの数や場所も不便。そのため長時間の滞在に向かない

[マニアが語る] 実物には写真では得られない感動がある

僕が「ダム好き」になったのは、中学生の頃。父と長野方面へキャンプに行き、たまたま小渋ダムの天端にたどり着いた。ダムと知らずに車を降り、切り立った堤体のアーチを見下ろしてびっくり。その日から、ダムは僕にとって「怖いけれど、気になる存在」になった。当時は「ダムが好き」と言うと周囲からは変人扱い。だが最近は、興味を持つ人が増えている。身近にない施設なので、「どんなものか見てみたい」と感じる人が多いようだ。

ダムはそれぞれ個性的だ。同じ形式でも、ロケーションによって全く異なる姿を見せる。刻まれた歴史も違う。黒部ダムなど、写真で見慣れていても、現地で実物を目の当たりにすれば多くの人が感動するものだ。これが大切だと思う。ダムツアーをプロデュースすることが多いが、より格好良く見える角度や他のダムとの相違など、ダム好きならではの視点から魅力を伝えることを心掛けている。(談)

ホームページ「ダムジャパン」を運営するダムツーリズム・プロデューサーの琉氏
(写真:本人提供)

土木学会は100周年事業の一環で、JTBと連携したツアーを複数回実施。上は昨年12月の「東京港トンネルウォーキングツアー」で、「大人の探検」とうたった。右は、今年6月の「圏央道見学ウォーキング」で訪ねた相模川に掛かる土木遺産の小倉橋
(写真:土木学会)

■ インフラツーリズム成功の八つのカギ

一、テーマを設定せよ

観光地の1カ所として組み込むのでは弱い。親子や女性、歴史好きなど、ターゲットを絞ったテーマを軸に企画を立案する

一、マニアを巻き込め

マニアほど、一般の人が何に興味を示すか、施設のどこが魅力かを熟知している。それを企画段階からリサーチし、場合によっては協働する

一、ガイド役を立てる

「魅力」を伝えるうえではプロの旅行ガイドより、説明が上手な現場担当者やマニア層の著名人など、施設への「愛」を持つ人の方が効果的

一、グッズが人を呼ぶ

「ダムカード」や「ダムカレー」のようなオリジナルグッズがあると集客しやすい。「行った人」だけが手に入れられたり、体験できたりする仕掛けが集客につながる

一、見せ場を演出する

施設をただ眺めてもらうだけでは弱い。ダムの放水やライトアップ、トンネル内でのライブなど、見せ場として演出できる素材はたくさんある

一、セットでお得感

一見インパクトがない施設でも、一度に複数カ所を効率的に回るツアーに盛り込む手がある。参加者にとってはお得感にもつながる

一、一般メディアを使う

インフラツーリズムはテレビなど一般向けメディアの注目度が高い旬な話題。積極的に情報提供する。建設専門メディアだけでは一般の人に届かない

一、自ら魅力に気付く

建設のプロには当たり前でも、外部の人が興味を抱く素材は多い。外部の声に耳を傾けて、まずは自ら魅力に気付くことが企画開発の第一歩

６．利用・維持管理段階における取り組み

取り組みの対象		WS における意見	備　考
地域住民の関わり （定期清掃、日常利用　等）	地域住民として、利用・維持管理段階でどのような関わり方が考えられるか、また、どのような関わり方を望むか。		
子供たちの関わり （歴史学習、ゴミ拾い　等）	地域の子供たちの利用・維持管理段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。		
観光客の関わり （観光拠点、イベント　等）	観光客の利用・維持管理段階での関わり方として、どのようなものが考えられるか、また、どのような関わり方が望まれるか。		

■河川の利用・維持管理に関する考え方

これまで（管理者主体の整備と維持管理）

河川管理者が主体となった利用施設の導入
河川管理者による定期的な維持管理
↓
河川管理者が利用施設を提供

⇨

ニーズに合わない利用施設の導入
一部の悪質な利用者によるマナー違反
↓
施設が利用されない
維持管理の限界

これから（住民参加による整備と維持管理）

住民参加による整備計画
住民参加主体の維持管理
↓
利用者が望む利用施設を提供

⇨

ニーズに合った利用施設の導入
住民が参画することでマナー違反が減少
↓
施設利用の活性化
官民一体となった維持管理

住民参加による維持管理とは？

施設管理者が維持管理を放棄するという考えではありません。
どのような状況でも施設管理者に責任があることに変わりはありません。

利用施設を長く維持するためには、
実際に利用する人々、地域住民が望ましい維持管理のあり方を主体的に考え、
官民一体となって維持管理に取り組むことが必要であるという考え方です。
（※行政に全てを要望するのではなく、お金、人手、機械等を出させ、ともに活動するといった方法等）

地域住民の主体性が失われると・・・・

施設管理者は、管理上問題が無いよう、必要最小限の維持管理を行います。
しかし、利用されない施設には、次第に人手も手間もお金をかけることが出来なくなります。

結果的には３面張りの河川、コンクリート張りの広場に・・・・

みずがめフォーラム

私達は豊かさと便利さをあまりにも求めすぎ、飲めない川、泳げない川、そして身近な生き物が消え変わり行く自然環境を危惧し、少しでも清流を取り戻し消え行く生き物達を守りたい気持ちで、2006年7月5日会員18名で発足しました。

＜団体名＞
みずがめフォーラム
代表者：吉川　辰美

＜事務局連絡先＞
設立年月日：平成16年5月1日
住所：小林市南西方7724番地
事務局員：吉川　辰美
電話：0984-25-2626
FAX：0984-25-2620
ホームページ：
http://mizugameforum.web.fc2.com/considers.html
Eメール：yoi64@alpha.ocn.ne.jp

＜団体構成＞
人数：20人

＜活動エリア＞
小林市

＜活動実績＞
1.園児の自然観察
2.低学年の河川生物調査
3.会員による河川水質と生物調査
4.地元住民への会活動説明・・・チラシ配布、住民への説明

＜予定されている活動＞
1.園児の自然観察
2.低学年の河川生物調査
3.会員による河川水質と生物調査
4.住民参加の河川水質調査と生物調査
5.一般参加の河川環境実情についての講演と、身近な食材を利用したレシピの紹介と試食
6.標本製作教室

＜団体PR＞
私達は、周りの里山の豊かな自然の恵みを受けて、先祖伝来生活を営んで参りました。しかし、あまりにも豊かさを求め過ぎ、周りの自然を壊し、今は魚も棲みにくく、子供たちも泳げない川を余りに多く残しました。
命の水を蓄える里山も裸同然にし、数十年前のあの自然を一変させてしまった今、確実に動植物の減少は続いています。私達は、小さな市民団体ですが、この私達の熱い思いと行動に是非応援と、ご協力をお願い致します。

皆で守りましょう命の水を。

山崎川を清流にもどす有志の会

本郷小・中学校の生徒が毎日等下校する身近な川は平成9年に多自然川づくりで整備され、最近まで雑草が繁茂し家庭雑排水が流れる汚い川を、子どもたちが近づける川にするため学校及び地域住民とが連携する川づくりを発足した。

＜団体名＞
山崎川を清流にもどす有志の会
代表者：飛松　國輝

＜事務局連絡先＞
設立年月日：平成23年10月1日
住所：宮崎市希望ヶ丘1丁目18-10
Eメール：k-tobimatsu@gem.bbiq.jp

＜団体構成＞
20人

＜活動エリア＞
山崎川

＜活動実績＞
（河川の草刈り）
年三回実施する。
参加者は趣旨に賛同する住民、スポーツ少年団や高校生ボランティア

（実績内容）
・河川美化活動、メダカ・蛍の学校再生、花の咲く川づくり
・環境教育（水質、水生生物、流量調査年4回（3箇所）
・平成25年度初夏：ホタル数匹舞う

＜予定されている活動＞
1）河川管理者と地域住民が連携する蓮根池（仮称）づくり
2）河畔林の植栽（桜、柳）
3）カワニナの放流
4）花しょうぶ植栽（看板を掲示し地域住民に呼び掛ける）

祝吉ホタルの里保存会

ホタルの生息地として知られる祝吉ホタルの里の水生生物、植物の研究保存、堤防等周辺環境の良好な保全と地区民の憩いの場所づくりを目的とする。

＜団体名＞
祝吉ホタルの里保存会
代表者：大山　竹文

＜事務局連絡先＞
設立年月日：平成20年4月
住所：都城市郡元 4丁目 4-25
事務局員：鍋倉　誠
電話：0986-21-3518
FAX：0986-21-3518

＜団体構成＞
人数：30人

＜活動エリア＞
都城市祝吉地区

＜活動実績＞
清掃活動：年4回　3月、4月、7月、11月
水質検査：年4回　3月、4月、7月、11月
研修会：年4回　3月、4月、7月、11月
カワニナの放流：年4回　3月、4月、7月、11月
ホタルの飛来調査：年4回　3月、4月、7月、11月

＜予定されている活動＞
清掃活動：年4回　3月、4月、7月、11月
水質検査：年4回　3月、4月、7月、11月
研修会：年4回　3月、4月、7月、11月
カワニナの放流：年4回　3月、4月、7月、11月
ホタルの飛来調査：年4回　3月、4月、7月、11月

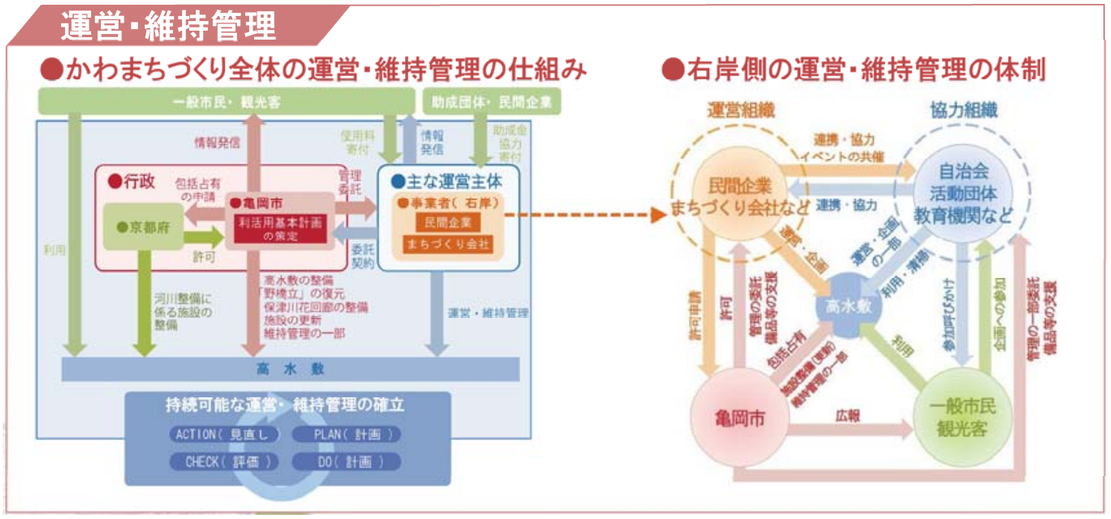
＜団体PR＞
定期的な調査を行うことで、ホタルの最盛期や発生場所が明らかになりつつある。年間の水質データや周辺環境の情報も蓄積できている。また、ホタルの里を清掃保持することにより、他の生態系の保全にもつながっている。水利組合、淡水漁業組合、まちづくり協議会等、地区民と共同作業することで、地域との良好な絆が形成されている。都城市のホタル個体調査のモデルとなることが期待されていると思われます。

●河川維持管理における他地区の事例

①　保津川（京都府）

・保津川かわまちづくりにおける維持管理

保津川では民間企業やまちづくり会社が中心となり運営主体となっており、協力組織である自治会や活動団体と連携しながらイベントの共催や定期的な清掃活動を行っています。



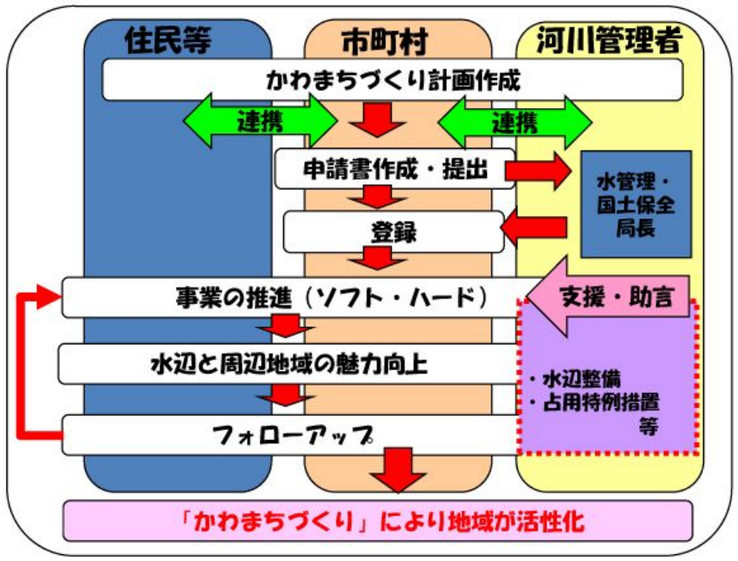
イベントの様子（保津川チャリティ・フォンラン）

活動団体による河川の清掃（月１回実施）

②　川内川（鹿児島県）

・川内川かわまちづくりにおける維持管理

川内川流域では、これまでに薩摩川内市の向田地区、伊佐市の湯之尾地区、えびの市の湯田地区が「かわまちづくり支援制度」に登録されています。それぞれの地域で、住民の皆さんと行政がともに語り合い、より安全で親しみやすい水辺空間の創出と維持に向けた取り組みが行われています。



図：かわまちづくりの流れ

推進協議会の様子
（伊佐市湯之尾地区）

整備箇所を利用した清掃活動
（伊佐市湯之尾地区）

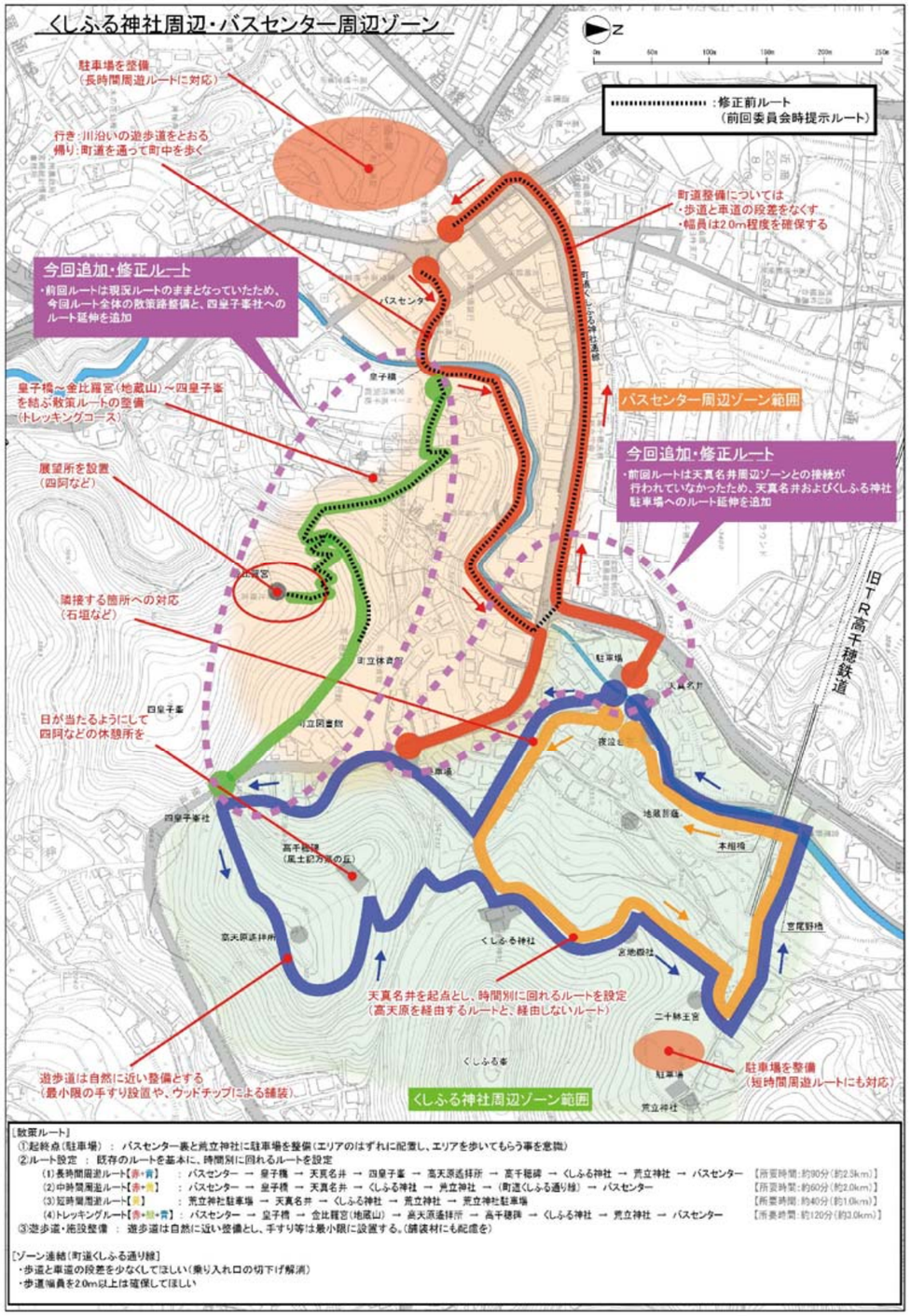
７．今後の検討課題
【かわづくり関連】

①護岸や川底のデザインについて
　→空石、練石、割石、化粧パネル、擬石　等

②平地部分の整備デザインについて
　→芝生、土、石、ブロック、コンクリート　等

③施設整備デザインについて
　→橋梁、トイレ、四阿、ベンチ、案内版、　等

７．今後の検討課題
【まちづくり計画】



1. サイン整備

町内の観光施設や案内所等のスポット（約 70 箇所）について、以下の項目について必要性を検討する。

- ○ 町外（郡外）からの案内
- ○ 町外（郡内）からの案内
- ○ 幹線道路の案内
- ○ 支線道路の案内
- ○ 施設付近の案内
- ○ 総合案内板への掲載
- ○ 施設の説明看板
- ○ 歩行者用の看板
- ○ シーズン臨時案内板

新規に設置するサインについては、「神都 高千穂」のイメージにふさわしく、景観に溶け込むデザインとする。

※サイン
万人に向けた適切な情報伝達を目指して、公共施設などに設置される案内標識

【くしふる神社・神話史跡コース】
- ●総合案内板、施設の説明看板の充実、多言語化（天孫降臨ゆかりの地としての案内）の検討
- ●駐車場の確保、整備の検討
- ●神話史跡コース遊歩道の再整備の検討
- ●景観整備（樹木・立木等の手入れ、展望の確保）の検討
- ●天真名井・神代川の保全、整備の検討
- ●木漏れ日等のある休憩所の整備の検討
- ●トイレの整備の検討
- ●街灯の整備の検討
- ●パンフレットの整備、多言語化の検討

整備ゾーン		メニュー	事業主体	事業年度 H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	備　考（想定事業名等）
■天真名井周辺・神々のゾーン	○天真名井周辺 天真名井周辺と天真名井上流左岸側の環境整備	・河川整備	河川管理者	設計		施工	施工				河川再生整備事業費
		・利用施設	高千穂町			計画	設計	施工			都市再生整備事業等
		・植栽	河川管理者	設計		施工	施工				河川再生整備事業費
			高千穂町			計画	設計	施工			都市再生整備事業等
		・維持・管理	地域住民・河川管理者・高千穂町								地元組織による維持管理を継続
	○くしふる神社周辺 くしふる神社を中心とする散策路等の整備	・利用施設	高千穂町				計画	設計	施工		都市再生整備事業等
		・植栽	高千穂町				計画	設計	施工		都市再生整備事業等
			地域住民								植栽補助金等の導入を検討
		・維持・管理	地域住民・高千穂町								地元組織による維持管理を継続
■神話・歴史・文化の周遊ゾーン	○接続道路 天真名井・くしふる周辺と皇子橋上流・バスセンター周辺の各ゾーンを接続する道路の整備	・道路施設	高千穂町				計画	設計	施工		都市再生整備事業等
		・利用施設	高千穂町				計画	設計	施工		都市再生整備事業等
		・植栽	高千穂町				計画	設計	施工		都市再生整備事業等
			地域住民								植栽補助金等の導入を検討
		・維持・管理	地域住民・高千穂町								
■皇子橋周辺・水辺いこいのゾーン	○皇子橋周辺 皇子橋上流左岸側の環境整備	・河川整備	河川管理者		調査	計画	設計	施工	施工		
		・利用施設	高千穂町				計画	設計	施工		
		・植栽	河川管理者			計画	設計	施工	施工		河川再生整備事業費
			高千穂町				計画	設計	施工		都市再生整備事業等
		・維持・管理	地域住民・河川管理者・高千穂町								近傍で活動する地元組織を中心に体制を構築
	○バスセンター周辺 バスセンター周辺の利用施設を中心とした整備	・利用施設	高千穂町			計画	設計	施工	施工		都市再生整備事業等
		・植栽	高千穂町			計画	設計	施工	施工		都市再生整備事業等
			地域住民								植栽補助金等の導入を検討
		・維持・管理	地域住民・高千穂町								近傍で活動する地元組織を中心に体制を構築

散策路関連は H28 年度から計画開始（１年前倒し）

高千穂町全体のまちづくり計画として H27 年度末から計画開始予定（１～２年前倒し）